

8. 環 境 教 育

1. 井土メダカ保全事業(宮城教育大学連携事業)

東日本大震災により津波等の被害を受け、絶滅の危機に瀕した仙台市沿岸部の野生メダカの生息数を回復させ、以前の生息地での復活を目指す事業。震災の前年に、若林区井土地区にて調査・保全目的で野生メダカを採集していた宮城教育大学と協力して実施している。平成 24 年に事業開始して以降、有志市民に里親となってもらい、当該地域のメダカを飼育・増殖させてきた。令和元年度の里親募集終了までに里親となった市民は 227 組（うち学校 6 校、その他施設等 4）。令和 3 年度には、メダカ採集地である六郷東部地区住民らの要望を反映する形で“東六郷コミュニティ広場”内に作られた「メダカ池」への放流が行なわれた。令和 4 年度には里親イベントとして、宮城野区沿岸の“カントリーパーク新浜”にて、「井土メダカのためのビオトープ作り」を実施し、令和 5 年 3 月をもって里親制度を終了した。

さらに令和 3 年度より毎年、仙台防災未来フォーラムにブースを出展し、身近な生き物の保全に関する市民啓発に取り組んでいる。また、令和 5 年度には、学習プログラム「震災と井土メダカ」の受け入れを開始し、令和 6 年度は 2 校に実施した。

2. ゾウ糞エコサイクル授業

動物の糞から作った堆肥を使用して学校で野菜を栽培し、収穫した野菜をアフリカゾウに給餌することで、自然界のサイクルを疑似体験するプログラム。園内で出る動物の糞を有効活用しつつ、アフリカゾウが自然界で担う役割や、アフリカゾウの個体数が減ることによる影響などについて学習をする。令和 6 年度は下記 4 校に対して授業を実施した。

＜令和 6 年度の実績＞

- ・仙台市立鶴谷小学校 1 年生 84 名

令和 6 年 5 月 29 日に小学校で、令和 6 年 10 月 7 日に当園で授業を行った。

- ・仙台大学附属明成高等学校 75 名

令和 6 年 6 月 3 日に高等学校で、令和 6 年 10 月 3 日に当園で授業を行った。

- ・仙台市立七郷小学校 2 年生 153 名

令和 6 年 6 月 7 日に小学校で、令和 6 年 10 月 4 日に当園で授業を行った。

- ・聖和学園高等学校薬師堂キャンパス 1 年生 98 名

令和 6 年 10 月 2 日に高等学校で、令和 6 年 10 月 21 日に当園で授業を行った。



せんだい防災未来フォーラムのブース



児童が作ったカボチャをプレゼント